



米国株 MARKET PICK UP



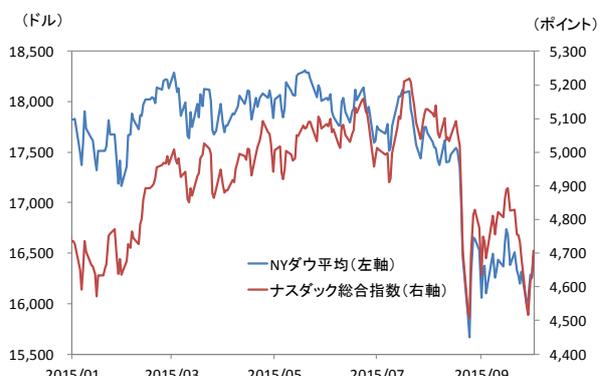
先週の米国株式市場—早期利上げ観測後退で上昇—

	前週終値	9月28日	9月29日	9月30日	10月1日	10月2日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	16,314.67	16,001.89	16,049.13	16,284.70	16,272.01	16,472.37	+157.70	+0.97%
騰落幅		-312.78	+47.24	+235.57	-12.69	+200.36		
S&P500	1,931.34	1,881.77	1,884.09	1,920.03	1,923.82	1,951.36	+20.02	+1.04%
騰落幅		-49.57	+2.32	+35.94	+3.79	+27.54		
ナスダック総合指数	4,686.50	4,543.97	4,517.32	4,620.16	4,627.08	4,707.78	+21.28	+0.45%
騰落幅		-142.53	-26.65	+102.84	+6.92	+80.70		

<今週の概況>

先週の米国市場はダウ平均が週間で157ドル高と上昇しました。週初は中国の景気減速懸念が強まったことなどから大きく下落して始まった米国市場ですが、週の半ばにかけて反発しました。また、2日に発表された雇用統計が低調で、10月のFOMCでの利上げ可能性が大きく低下したことが好感され、ダウ平均は200ドルの上昇となり週間ベースで上昇に転じました。ハイテク株比率の高いナスダック総合指数も上昇したものの、上昇率は小幅にとどまりました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



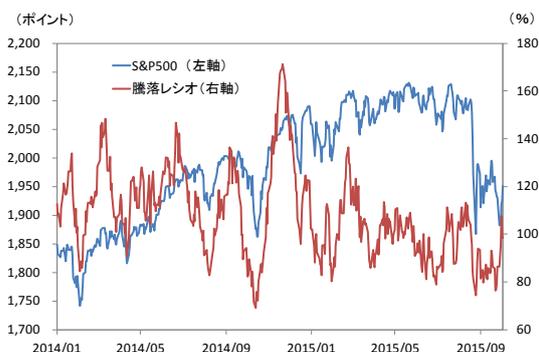
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	15.0	2.9	2.7%
S&P500	16.5	2.6	2.2%
ナスダック総合指数	20.2	3.3	1.3%

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年10月2日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

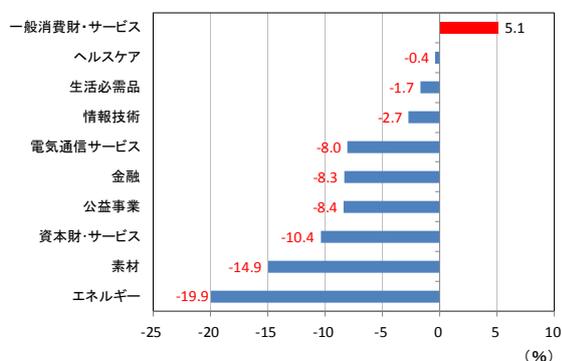
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

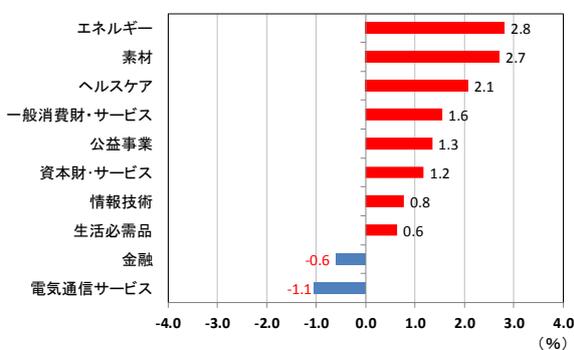
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (9/28-10/2)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
INTC	インテル	5.9
CVX	シェvron	5.0
PFE	ファイザー	3.7
MSFT	マイクロソフト	3.7
XOM	エクソンモービル	3.6
JNJ	ジョンソン・エンド・ジョンソン	3.2
UTX	ユナイテッド・テクノロジーズ	2.8
DIS	ウォルト・ディズニー	2.7
MMM	3M	2.6
MCD	マクドナルド	2.3

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング (9/28-10/2)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
AAPL	アップル	-3.8
VZ	ベライゾン・コミュニケーションズ	-3.1
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	-1.6
JPM	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	-1.1
CSCO	シスコシステムズ	-1.0
AXP	アメリカン・エクスプレス	-0.9
IBM	IBM	-0.6
PG	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー	-0.3
V	ビザ	-0.0

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中21銘柄が上昇しました。原油価格の反発を受けシェvron (CVX) やエクソン・モービル (XOM) が大きく上昇しました。ジョンソン・エンド・ジョンソン (JNJ) やマクドナルド (MCD) は投資判断引き上げを受けて買われています。

<下落>

アップル (AAPL) は新型 iPhone 用の部品の発注を今後減少させるのではとの報道が出て業績不安から下落しました。また、早期利上げ観測の後退を受け、ゴールドマン・サックス (GS) や JP モルガン (JPM) など金融株が軟調でした。

先週発表された主な経済指標

9月 非農業部門雇用者数（前月差） 市場予想 +20.2万人 前月 +17.3万人
 失業率 市場予想 5.1% 前月 5.1%
 平均時給（前年同月比） 市場予想 +2.4% 前月 +2.2%

米国雇用統計は全体として低調な内容でした。非農業部門雇用者数は9月分が前月差14.2万人増と市場予想を大きく下回ったことに加え、8月分と7月分が計5.9万人下方修正されました。注目度が高かった労働者の平均時給は前年比2.2%増と悪い結果ではないものの、市場予想の2.4%の伸びに及びませんでした。

将来のインフレ圧力となる同指標の伸びは高まっておらず、労働参加率も悪化傾向を続けていることから、FRBが利上げを急ぐ理由はなく、10月利上げの可能性は極めて低くなったと言えるでしょう。

非農業部門雇用者数と失業率



(出所)トムソン・ロイターデータよりマネックス証券作成

今後発表される主な経済指標

FOMC 議事要旨



8日に9月16日と17日に開催された連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨が公表されます。本議事要旨で公開されるFOMCが開催されたのは軟調だった9月の雇用統計の公表前ですが、その時点でどの程度利上げの可能性が議論されていたのかが注目されます。

また、今週はサンフランシスコ連銀のウィリアムズ総裁など複数のFRB関係者の発言が予定されており、低調だった雇用統計を受け、利上げについての発言に変化が出るか注目されます。

マーケットビューー不透明感残りレンジ相場継続ー

雇用統計は低調な結果だったものの、依然としてFRBは12月利上げをメインシナリオとして考えているとみられます。もし12月に利上げが行われなかったとしても、早晚利上げが行われる状況に変わりはありません。9月のFOMCでは中国経済や世界経済の鈍化が米国の物価上昇率に下押し圧力となることが懸念されての、利上げ見送りでした。中国経済の鈍化の程度はいまだ不透明で、抜本的な改善には至っておらず、引き続き原油などのコモディティ価格も低調に推移しています。

これらの状況からしばらくは米国株が大きく上昇するシナリオは描きにくいといえます。来年以降に向けて中長期的には買える水準であるとの見方に変わりはありませんが、しばらくダウ平均は16,000~17,000ドルでの推移が続くのではないかと考えています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会